

令和6年度白石市総合計画・総合戦略推進委員会

1 開催概要

- 日時 令和6年9月3日（火）午後1時30分～午後3時10分
- 場所 白石市防災センター2階 会議室

2 委員

	区分	団体等名称・役職	氏名	出欠
1	産業	白石商工会議所会頭	朝倉 秀雄	
2	産業	白石市産業振興会議代表	佐藤 全	(WEB)
3	産業	白石市観光協会長	佐藤 善一	
4	産業	白石市認定農業者	志村 竜生	欠席
5	教育	公立大学法人宮城大学事業構想学群教授	徳永 幸之	
6	教育	白石市校長会長	渥美 寿彦	
7	金融	七十七銀行白石支店長	高木 勇人	
8	金融	仙南信用金庫業務推進部業務推進課長	堀田 康郎	欠席
9	労働団体	連合宮城仙南地域協議会白石地区会議事務局長	小関 涼	欠席
10	メディア	一般社団法人スポーツ・ラボ理事長	児玉 聡	
11	士業	中小企業診断士	佐藤 勝幸	
12	議会	白石市議会議員	佐藤 秀行	
13	学識経験	白石市歴史文化アドバイザー	麻生菜穂美	欠席
14	学識経験	プランニング開代表・アトリエ自遊楽校主宰	新田新一郎	
15	学識経験	白石市移住交流コーディネーター	太斎 沙織	
16	地域組織	白石市自治会連合会長	紺野 澄雄	
17	地域組織	斎川公民館事務長	佐藤 幸枝	欠席
18	子育て	白石刈田地区父母教師会連合会長	菊地 忠久	
19	子育て	子育て世代	大庭 知子	

3 白石市出席者

	役職	氏名
1	市長	山田 裕一
2	副市長	菊地 正昭
3	教育長	半沢 芳典
4	総務部長	佐藤 純哉
5	総務部デジタル推進課長	志村 芳彦
6	総務部企画政策課長	高橋 雅美
7	総務部企画政策課長補佐	佐藤 弘子
8	総務部企画政策課	齋藤 将大
9	総務部企画政策課	柏尾 祐輔

4 配布資料

(事前配布)

- ・ 次第・名簿・委員会の役割
- ・ 資料1 第六次白石市総合計画・白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略
令和5年度実施状況
- ・ 資料2 第六次白石市総合計画 重点戦略・分野目標別指標 評価一覧
- ・ 資料3 市民アンケート集計結果
- ・ 資料4 転入者アンケート集計結果
- ・ 資料5 転出者アンケート集計結果
- ・ 資料6 令和6年度の主な取組

(参考)

- ・ 第六次白石市総合計画・白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略の概要
- ・ 白石市総合計画・総合戦略推進委員会設置要綱
- ・ 白石市総合計画・総合戦略推進委員会 事前意見と市の考え
- ・ 白石市まち・ひと・しごと創生第3期総合戦略策定業務スケジュール案

5 議事概要

○市長挨拶

本市では、令和3年4月に、今後10年間の本市の目指す将来像とまちづくりの方向性についての指針となる「第六次白石市総合計画」を策定。また、同時期に、地方創生・人口減少対策に重点を置いた「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」を策定し、計画に掲げる目標達成に向けて、様々な事業を展開しているところである。

計画の進捗状況の確認と成果の検証を行うため、「白石市総合計画・総合戦略推進委員会」を設置し、本日は、令和5年度の実績等をご審議いただくこととしている。委員の皆様におかれましては、専門的知見をはじめ、普段の生活から感じていることなど、様々

な角度からご提案、ご意見を賜りたい。

人口減少を克服することはかなり大変なことである。加えて、少子高齢化は、様々な分野の担い手となる方々の不足にもつながり、私たち行政だけでは解決できない課題が多く、様々な方々と連携していかなければならない。

豊かな自然、育まれてきた歴史・文化、恵まれた交通環境など、白石市が持つポテンシャルを活かし、そして、(仮称)白石中央スマートインターチェンジとその周辺整備を本市の活性化のチャンスととらえ、市民、企業、行政等が一丸となって、市の発展に取り組んでいけるよう、皆様のお力をお貸しいただきたい。本日は忌憚のないご意見を賜りたい。

○審議

(1)「第六次白石市総合計画」「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」の概要及び白石市総合計画・総合戦略推進委員会の役割について

事務局より、次第資料をもとに説明。

⇒質疑なし

(2)令和5年度実施状況及び令和6年度取組について

事務局より、令和5年度実施状況は資料1・2、市民アンケート結果は資料3、転入者アンケートは資料4、転出者アンケートは資料5、令和6年度の取組は資料6をもとに説明。また、委員からの事前意見と市の考えを配布。

【委員からのご意見等】

○ 重点戦略2「地域づくりを担う人材育成」は、勉強会や学習の場にどのような人が参加し、その後どのように育っているのかといった研修の成果を知りたい。

⇒ 各地区の特色あるまちづくりを進めるため、昨年度、これまでのまちづくり交付金から未来共創交付金へと、より使い勝手が良い制度に見直し、各地区への予算を増やした。各地区では、まちづくり宣言を掲げ、実行するための研修として、主に公民館活動やまちづくり協議会などの事業の担い手となる方々を対象とした人材育成に積極的に取り組んでいただいている。

また、まちづくり・住民自治の先進地と言われる新潟県などを視察し、自分たちの様々な事業に活かしているという報告をいただいている。

○ 人材育成は、その成果をどう測るかが課題。総合計画上は、どうしても講習会を実施したという実績での評価となり、なかなか指標として出せない。今後は、これらが実際のまちづくりや地域活性化にどう役立っていくかという点を見ていかなければならない。

○ まちづくりの件で、越河地区で越河ビジョンなどの宣言をつくり、地域の方々が様々な産業振興を行うといった動きがあると聞いたが、市は交付金などで後押しをしたか。

⇒ まちづくり交付金(未来共創交付金)を活用いただいた。

○ そういったことを市内で共有し、地域の取り組みの励みにしていただき、他地域の方々の参考になるよう是非広めてほしい。

⇒ 毎年、各地区のまちづくり事業を披露し合う事業報告会を開催しており、互いに良い

刺激となっている。これからも継続していきたい。

○ 地区報告会の参加者と話をすると、交付金をどのように使っているか市民が知る機会があると良いと感じる。活動している方々がどのようなことをしているのか、農業祭でのパネル展示などにより、一般の方々に見えるようにPRすることは大事。

⇒ 報告会自体は大変盛り上がっているが、それを市民にどう届けるか、ご意見はごもつともと感じた。具体的に、農業祭でのパネル展示などの提案があったが、本市には各種イベントがあるため、多くの市民が集まる際に見ていただけるよう担当課と検討したい。

○ 資料3 市民アンケートのうち、7ページ問9「市のイベントや各種講座・市政情報等を得るための手段」で、各媒体の年齢別利用状況を伺いたい。SNSなどであれば調べられるのではないか。

⇒ 市民アンケートの情報を得るためのツールについて、SNSではインサイトで年齢が確認できるかと思う。また、どの投稿のタイミングでフォローが増えたとか、どの時間帯に見られているかといった情報も分かると思うので、確認して後日回答したい。

〈追加回答〉

市民アンケート結果の内訳を確認すると、広報しろいしは、30歳代と40歳代がそれぞれ29.3%、次いで10歳代～20歳代が14.0%、60歳代が12.6%となっている。

しろいし議会だよりは、40歳代が23.9%と最も多く、次いで10歳代～20歳代が21.7%、30歳代と60歳代がそれぞれ15.2%となっている。

市公式HPは、30歳代が30.0%と最も多く、次いで40歳代が24.3%、10歳代～20歳代が22.9%となっている。

市公式SNSは、30歳代が39.6%と最も多く、次いで40歳代が24.5%、10歳代～20歳代が22.6%となっている。

市公式メール配信サービスは、30歳代が39.0%と最も多く、次いで50歳代が14.6%、10歳代～20歳代、40歳代、70歳代がそれぞれ12.2%となっている。

また、市公式SNSのインサイトでフォロワー数の内訳を確認すると、Facebookは、45歳～54歳が32.2%と最も多く、次いで35歳～44歳が22.6%、55歳～64歳が20.0%となっている。

LINEは、55歳～64歳が28.2%と最も多く、次いで45歳～54歳が26.3%、35歳～44歳が21.4%となっている。

Instagramは、35歳～44歳が28.7%と最も多く、次いで45歳～54歳が24.0%、25歳～34歳が19.9%となっている。

なお、近年、本市で力を入れているInstagramでの直近3カ月の10投稿を閲覧したアカウント数は2,904で、うちフォロワーが746、フォロワー以外が2,158となっている。また、「いいね」「コメント」「保存」などのアクションを実行したアカウント数は283で、うちフォロワーが243、フォロワー以外が40となっており、最もアクティブな時間が18時～21時という結果が出ているため、今後もインサイトを活用した戦略的な情報発信に努めていく。

○ 資料4 転入者アンケート問3-1の「福島県・宮城県以外」は、具体的にどこから転入してきたか伺いたい。

⇒ 転入者アンケートの他市町村の内訳は、質問項目自体を「他市町村」としていること

から、内訳までは把握してない。

○ 資料5 転出者アンケートは、白石に戻りたくない人がなぜ戻りたくないのかを把握するため、次のアンケートに追加できないか。

⇒ 転出者アンケートへの戻りたくない理由の質問追加は、様々なアンケートの取り方があるため今後検討したい。ただ、恐らく問5の白石に住んでいて不満だった点が理由と考えられる。アンケートを通じて様々な課題を分析し、次の政策に活かしていきたい。

○ 広報は、直接利用者の属性を調べることもできると思うが、アンケートに答えた人でクロス集計を行えば、どの年代の方がどのツールを使っているか、アンケート上の集計ができると思う。クロス集計を併せて分析していくと、この結果をどう使ったら良いのかというヒントになる。例えば、先ほどの白石に戻りたい、戻りたくないという点も、その層が他の設問でどう答えているのかクロス集計を行うともう少し見えてくる。

また、市民アンケートの子育ての重要度と満足度の散布図は、本当に関心のある方と全く関心のない方が混ざって評価されていると思うので、関心のある方、重要であると答えた方が、満足しているか満足していないかを見るとよりはっきりするのではないか。

○ 来年は中間点。A B C Dの評価があるが、A評価はこの時点でクリアしている。頑張っているということもあるが、そもそもハードルが低かったのかとも見える。また、3年経過してD評価というのは、これまで何をしてきたのか、それともハードルが高かったのか、結論を出さなければならない年となる。今年度の評価をどう見ているのか確認したい。

⇒ コロナ禍でなかなか達成できなかった指標もある。A評価も20項目以上あるが、必ずしもA評価が良いというわけでもなく、さらに取り組みを進めていかなくてはならない。また、C D評価は、各担当課に理由・課題・今後の進め方を確認しており、今後検証していきたい。また、C D評価となった事業（特にD評価）は、確かに不足な点がある事業もある。指標自体が5年近く前の指標となるため、当時の指標の考え方と、現在の指標の考え方が変わっている部分があり、総合計画が令和7年度で中間年となることから、今年度と来年度で指標の見直しも行っていきたい。

○ 委員からの事前意見に対し、厳しい指摘にも一つ一つ回答いただいている。大変素晴らしい計画。評価も上がっており、また、転出した方のうち白石に戻りたい方が70%というのは非常に誇らしいもの。だが、近隣市町との人口増減数の比較を見ると、なぜか白石だけが右肩下がり、他市町には何があるのかと思ってしまう。この辺の分析で、他市町の状況や白石の頑張っていることなどを見て何かポイントがあるのか。ここが納得できない。なぜだろうという気持ち。

⇒ 私自身一番ショックだったのがこの資料1の6ページの数値。当然、他市町も持続可能な市町として様々な努力をされ、お互い切磋琢磨するライバルだが、本市がそれほど劣っているのか、正直私はそうは思っていない。おかげさまで、学力もすべての小中学校で県平均を超え、全国平均を超える学校も出てきた。教育改革として令和元年にスタートした取り組みの成果が間違いなく数値でも現れており、他市町に負けにくいぐらいの教育レベルだと思っている。また、昨年4月に学びの多様化学校「白石きぼう学園」を開校し、本年度から子どもの第3の居場所「しろいしきち」をスタートさせ、すべての子どもたちに教育の場を提供している。間違いなく他市町より力を入れて教育政策を進

めていると自負しているが、なかなか結果がついてこず、出生数減や社会減となっている現状は正直厳しいと感じている。どうしても各市町の特長もあり、例えば、柴田町であれば仙台大学や自衛隊があり、大河原町であれば県の出先機関が集中しており、学校の先生方も通勤の利便性から大河原町に家を建てる方が多い。そういった立地環境も影響しているかと思う。本市が極端に劣っている点は何か、他市町の何が素晴らしいのか、何が影響してこの結果となっているのか、それらすべて含めて難しく、本当に悩んでいるところ。

- 一つ提案だが、良い事業を市民や市民以外の人たちに分かっていただくという点がまだ力不足かと思う。広報紙をオシヤレにする、あるいはデジタルサイネージなどを市民の集まる場所や新幹線の駅などに設置し、面白い映像や季節の風景、お城・お祭りなどを映像で流せば面白いと感じてもらえる。

もう一つは、暮らすためのアパートが非常に少ない。空き家バンクをもっと進めて欲しいと思うし、それに温泉を付ければ面白いと思う。実は、この4月から教え子が柴田高校の教員になったが、蔵王町に住むと言うのでその理由を聞くと、蔵王町には温泉付きのペンションが非常に安く出ており、自由に活用できるという。まさに、空き家バンクである。もう一工夫、二工夫して住んでみないかとPRすべきだし、良い取り組みを自分のところだけで回すのではなく、それを外に開いていく工夫をした方が良い。

- ⇒ 本年、本市は市制施行70周年。今回欠席された委員の方からも「こんなに良いことをもっと市民の皆さんに届けて欲しい」と何度もお話をいただいている。本市では、本年を情報発信力強化元年とし、具体的に子育て世帯に選ばれるまちづくりをしていきたいということから、市ホームページの子育てサイトをリニューアルし、分かりやすく情報を届けるために改良している最中。

また、Instagramの公式アカウントを取得したり、先日は七十七銀行とW TOKYOのイベントに参画してTikTokの公式アカウントを取得したり、その中で主に若い職員が、若い方々に対しての情報をより効果的に発信しようと、今まさに取り組んでいる。

さらに、デジタルサイネージなどのデジタル技術を使って、視覚に訴えていくということは非常に重要だと思う。市民の皆様にもっと本市の情報を届けられるよう行政として努力していきたい。

加えて、空き家バンクの活用は、確かにまだまだ可能性がある事業。空き家調査で831棟の空き家があり、所有者に利活用を考えているかアンケートを取ったところ、半分の方が「どうするか考えていない」という回答で、そこに対しては逆にアプローチができる。本市の様々な政策、空き家をどのように利活用するか、例えばリノベーションするなど、そういった点を含めてチャンスがあると思う。市内の不動産事業者の皆様と協定を締結し、この空き家バンクに登録いただけるよう現在進めている。蔵王町の温泉付き住宅の話も素晴らしいと思うので、様々な事例を研究しながら取り組んでいきたい。

- ⇒ 住居の話で一番ショックだったのは、ある事業所の社長が本市に異動となった際、家族で住むアパートが本市に無く、大河原町から通勤していると言われたこと。不動産の関係者に話を伺うと、不動産会社の方でも努力されていると。株式会社トーキンの本社機能が本市に移転したことで、これからますます住宅需要は増してくる。刈田病院からも看護師確保のため、住む場所の充実をお願いされており、本市に住んでもらえるよう

市内不動産会社にも働きかけているところ。

- 白石市は本当に広く、JRの駅が4つもあるが、これからの高齢社会を見据えるとコンパクトシティへシフトしていかなければならない。私は駅前に住み、歩いて商工会議所まで行けるが、社会福祉協議会は山の方にあるので歩いて行くわけにはいかず、使い勝手が悪い。運転をやめたくてもやめられないという問題もある。市民が頻繁に使う公共施設は、街中に集中させて欲しいというのが私の希望。高齢者にとって住みよい街、他の年代の方にとっても住みよい街になるのではないか。

また、刈田病院だが、病院というのは賑わいをつくる場所で山の上に建設したのは本当に失敗だったと思う。これからできることは、例えば、大河原町のみやぎ県南中核病院の村田診療所のようなサテライトのクリニックを建て、市民の便宜を図ると良い。一番大事なことは、病院移転の際は絶対に街中であるべきというのが私の考え。

- 皆様方の意見を聞いて思ったことだが、やはりシビックプライドというか、良い事業をどう市民に知ってもらい、市民自身が「白石は良いところ」と感じ、自信を持って「白石が良い」と言えるようなまちづくりをしていかなければならない。人口の定着、あるいは観光もそうだと思う。観光は元々国の光を見る・見せるということであり、そこで生活している人たちが輝いてないとうとうにもならない。そのような光をいかに多く発信していくか。市民にまず発信することが大事だが、もう一つはどう外に発信していくかということ。キッズランドに最近孫を連れて行ったが、仙台市内には同様の施設があまりなく、あっても商業施設の中で料金も高く利用制限もあるなど、それと比べて大変うらやましい施設。この施設を口コミで知ったため、恐らく仙台市民で知っている人はまだ少ないのではないか。市民のための施設でもあるので、あまり仙台の人が占領してはいけないと思うが、料金的にも非常に安いので、県外・市外からの人はもっと料金を高くしても良いと思う。

また、せっかく白石市に来ていただいたのに、その後どう市内に人を流していくか、もう一工夫必要だと思う。それはいずれ道の駅・スマートインターチェンジができた際も、それだけが目的地というのは勿体ないので、その周辺とどう連携し、国道4号線の流動を増やすということを考えていかなければならない。福島市との連携、周辺市町との連携をしながら、そこを起点として回遊してもらうための戦略をしっかりと考えていかなければならない。

- ⇒ スマートインターの関係で、今ある白石ICで降りて白石の街中を観光し、もう一度戻って高速に乗ることがこれまで難しかったが、新しいスマートインターができれば、そこからの回遊ができるのではないかと思う。都市創造課の計画では、駅前の方に道路を作る方向で動いている。白石城を見て回遊していただくと旅館・ホテルがうまく回っていく。道の駅やスマートインターを活用して好循環となれば良いと思うので、時間はかかるかもしれないが何とか歯止めをかけていきたい。
- 教育関係は成果が出ているところだが、全国平均との比較を見ると、算数・数学が若干低く、非常に勿体ない。理系が苦手ということは理科も苦手と思うが、理科や算数が実社会の中でどう役立っているのかを知ると実は面白いということを、実社会の中で体験できる点が地方都市のメリットだと思う。なかなか仙台市内ではそのような場がないので、普段の生活の中で地方と同様の体験はほとんど得られないが、地方であればそう

いう点を積極的に活用し、学習効果を高めていくことができるのではないかと。ICT でタブレットなども大事だが、いかに実社会、周りの自然環境の中で育っていくということも非常に大切。是非、白石市モデルというような形で頑張っていたいただきたい。工業高校があるというのも一つの特徴で、そこを上手くつなげ、企業誘致や学生の就職という形で良い循環が生み出せるのではないかと。

⇒ 算数・数学の問題は、本市特有の現象ではなく、実は本県全体の大きな課題。10年以上文部科学省の調査に参加しているが、全国平均を上回ったことが本県は一度もない。本市も全体的に学力は向上しているが、やはり算数・数学は大きな課題。直近の調査データでも理数系が弱い。これは県全体・本市の課題の一つと認識している。

これまで教育委員会は、各学校の授業改善などの取り組みのサポートを中心としてきたが、今年度から、教育委員会が各学校に提案し、その提案が良ければ採用してもらうといった提案型の取り組みを行う。白石スタンダードを教育委員会がトップダウンで示すというやり方ではなく、現在、校長会などと相談しながら軌道修正を行っている。ちなみに、明後日、小学校の部の提案が教育委員会でまとめ、各学校の代表の皆さんに提案を行う。また、工業高校、白石高校の生徒に小学校や中学校に来てもらい、自然ワークやものづくりが楽しい、面白いと感じてもらい、取り組みを進めるなど、今後も強化していきたい。

○ キッズランドでは8月に過去最高1万3千人が来場した。通常、一度行ったことのある施設は、大抵二度は行かないもので、コロナ禍後に激減するかと思われたが、今年の5月5日子どもの日に河北新報に「羨望のまなざし」という見出しで、キッズランドと利府町の施設が紹介された。キッズランドにある大型遊具、つまりハードは飽きられるが、何かを作って遊ぶ、お話遊びなど、毎日のように事業展開して飽きられないよう行ってきたことで、リピーターが増え、職員との絆ができたということが大きい。岩沼市の金蛇水神社のすぐ下に民間企業が運営するオシャレ感満載の施設の建設予定があるそうだが、そうした意味ではソフトをきちんと維持していきたい。富谷市にも来年春建設の計画があるが、他に負けないためにも取り組んでいきたい。

来場者が一日に千人を超える日曜日や土曜日があるが、そのお客様のために日曜日に閉めていた商店街、特に食事処はお店を開けているところもある。まさに、キッズランド効果だと思う。今度は市民に還元する番で、今まで0歳から3歳の子どもの入場料をいただいているが、他では0歳児から3歳児まで入場料を取っているところがないため、私は無料にした方が良く思う。赤ちゃんの駅でもあり、無償で提供しても全然問題ないと思う。他県から来たお客様からの余剰金を白石市に還元する、そういう方策で白石市民は安くした方が良く思う。

○ 事前意見への市からの回答をいただいているが、不足の点があれば事務局にお伝えいただきたい。事前意見や本日の意見で貴重なご意見をいただいているので、市で総合計画・総合戦略をしっかりと推進していただきたいと思う。

(3) その他

事務局より、本日の内容について、9月中に市ホームページで公表する予定であること、今回の内容を庁内で共有し、事業の見直しや改善、新規事業の検討を行っている

くこと、総合戦略が令和7年度で終期を迎えることから令和6年度と7年度の2か年で改定作業を行い、併せて総合計画の指標の見直しを行うため、来年3月に第2回目の会議を開催予定であることを説明。

○市長挨拶

長時間にわたり、数多くの貴重なご意見等を賜り感謝申し上げます。

本日いただいた数々のご意見は真摯に受け止め、今後の政策に反映していけるよう努力していきたい。「第六次白石市総合計画」に掲げる「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現に向けて、皆様からの叱咤激励を賜りながら努力を重ねてまいりたい。

(以上で閉会)